

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 -)

事業所番号	O670400340		
法人名	米沢弘和会		
事業所名	サンブラザ米沢グループホームさんさん		
所在地	米沢市大字築沢3470		
自己評価作成日	平成 22年 8月 1日	開設年月日	平成 9年 7月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の中でその人がその人らしく生活できるよう支援を心掛けている。入居者の皆様の思いを汲み取り我が家で生活しているような自由で安心できる楽しく笑いのたえないホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

郊外の自然豊かな地域に位置するこの事業所は民家を改築し、その構造からなじみのある普通の家で生活をしているような雰囲気がある。また同じ敷地内には同法人が運営する老人保健施設その他介護施設が併設され、様々な面で連携が図られ、より安全と安心を提供できる体制が整えられている。職員は全員が介護福祉士の資格を有し、日々グループホームにおけるケアのあり方について検討し、具体的な行動目標を掲げながら、その人がその人らしく暮らせるための支援に取り組んでいる。その成果が利用者の穏やか表情と笑顔に現れている。また、近所の小学校や地域との交流も日常的に行われ、地域に根差した、明るく家庭的な事業所である。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形県山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 22年 8月 26日	評価結果決定日	平成 22年 9月 16日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念をもとに事業所内で運営方針を作り、入居者の皆様が1日も長く住みなれた地域で生活できるよう実践につなげている。	法人の基本理念を基に事業所内では毎年運営方針を作成し、それを独自の行動目標に落とし込み、実践につなげている。「家庭的な環境の中でその人がその人らしい生活を、1日も長く送れることができるよう援助する」を行動目標に掲げ、朝礼等の機会に唱和して共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区行事(運動会、お祭り、文化祭等)に参加し、交流を図っている。予防教室に参加したり、施設のお祭りには、地元の幼稚園が共催し一緒に楽しんでいる。	近隣の小学校のグラウンドを活用して行われる運動会や地元幼稚園と共催する夏祭り、地域の文化祭への参加と交流の機会は豊富である。地域のコミュニティーセンターで開催される介護予防教室にも参加し、地域への情報発信の役割も担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内のサービス企画課で開催している介護予防教室に参加し、コミュニケーションを図り、アピールを行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	さんさん便りを発行したり、写真を掲示して日常の取組みを報告している。ご家族やその他参加されている皆様の意見や要望など、会議行い検討しサービスの向上に務めている。	運営推進会議には家族、利用者、地区や法人の代表、行政の職員等が参加し2ヶ月に1回開催されている。事業所からは日ごろの取組みや外部評価の結果の報告を、参加者からは意見や要望を伺っている。実際会議にて出された防災・設備の安全向上についての要望に対し、近隣3施設とを結ぶ警報システムを導入したり、調理器具をガスからIH器具へ変更するなど安全とサービス向上に役立てる取組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加はもちろんのこと、市から派遣職員が2名訪問され交流を図りアドバイス等もらっている。市や包括支援センターにも出向いていくよう心掛けている。	市の介護相談員が2ヶ月に1回訪問する際に職員と共に利用者も話しをし、交流を図っている。事業所側も市や包括支援センターに出向いて”さんさん便り”を届けたり、日々の取り組みについて報告すると共にアドバイスを求めたりして、日常的に交流し協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	法人全体の教育もあり理解している。入居者一人一人の思いを汲み取り拘束のない安心してくつろげる生活が送れるようサポートし処遇に取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの実践のために事業所独自のマニュアルを活用し、また研修を実施し職員に対する理解を徹底している。玄関にはセンサーを利用することで鍵はかけず、外出してしまう利用者には引き止めることなく、一緒に散歩する等、安全に配慮しつつ利用者の自由意志を尊重しながら支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の教育もあり虐待防止について各職員理解し努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料等で勉強は行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時、契約時に文章、口頭で説明を行い不安に思うこと心配等気軽に話が出来るように心がけ理解納得していただけるよう務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望の記入用紙を設置している。また、市からの派遣職員の訪問もあり表せる機会を設けている。意見等あれば職員全員で検討し反映している。	利用者、家族から意見要望をいただけるように記入用紙を設置をしているが、それ以上にその都度気兼ねなく話してもらえる信頼関係作りに力を入れている。常日頃からの付き合いからなじみの関係を構築し、家族の面会時には状況の報告と共に遠慮なく意見や要望を話してもらえるような環境づくりに努めている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を開催している。そこで出た意見を地区の管理職会議にもっていき反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間にも恵まれ、働きやすい環境にある。毎年、給料の見直しも行なわれている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の面接を行い各職員と向きあっている。職員の現状に応じ研修会にも参加している。また、資格取得に向けた勉強会も開催している。	本事業所は法人内の別の事業所にて経験をつんだ職員が配属され事実上新人が配属されることは無い。そのため実践的なOJTを行いながら現場配属され、また現在その全員が介護福祉士である。職員は事業所独自の確認シート(アビリティ&スキルシート)を活用し本人の希望を確認しつつ管理者との年2回の面接を通して、どのようにレベルアップを図っていくか、計画し実施している。このシートを基に本人の技量にあわせ、管理者は法人内及び外部、また資格取得に向けた各研修に派遣している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県グループホーム協議会の会員になり研修会の参加を図っている。又、職員交換研修会等にも参加し交流を図り、向上に努めている。他の事業所を見学も兼ね交流に結びついている。	山形県グループホーム協議会の会員となり、研修会や交換研修会、またGH東北大会および山形大会にも参加し、同業者との交流とネットワーク作りに積極的に参加し事業所のサービス向上に役立てるべく努力している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時、契約時に、十分本人から話を聞き、現状までの、生活状況を把握できるように努めている。職員間での意志統一を図った対応を心がけている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時、契約時に、十分家族から話を聞き現状までの生活状況を把握できるように努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	近隣施設との連携を図り最良の支援が提供できるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が得意なもの(料理、裁縫、畑等)、趣味などを、コミュニケーションを図りながら、楽しく過ごせる環境作りに務めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡を密にして、協力してもらえることは、出来るだけお願いしている。又、面会時、現状を報告し情報の共有を心掛けている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所にドライブに出かけたり、面会時、一緒に写真を撮ったりして、それを元にしてコミュニケーションを図っている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格も考えながら、状況に応じた支援声かけなどし、関係作りにつなげている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人全体の取組みにより、法人全体の行事等をお知らせしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話や共にする生活の中で希望や、意向を見出し、職員同士申し送る事で連携している。	日常的な会話やふれあいの中から一人ひとりの、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族からの聞き取りや、しぐさ、表情等からくみ取り、本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に詳しく聞き取りを行ない、申し送りしている。又、各職員、夜勤時間等を利用し把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夜勤帯、日勤帯での申し送りを密にして、変化に気づき、現状把握に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との連携を取り、本人の希望にそった生活、介護ができるよう検討し計画作成している。また、興味ややりがいを引き出せるような対応を提供している。	家族からは面会時に要望を聞き、全職員が参加してのサービス担当者会議では、より良く暮らすための、気づきやアイデアを出し合い、介護計画に活かしている。モニタリングは3ヶ月毎に行い、変化がある時はすぐに見直しを行い現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を具体的にし、密に申し送りを行い実践している変化点などには、都度、話し合い、見直しに反映させている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関係施設に訪問したり、行事に参加してもらっている。安全、安心して暮らせるよう駐在所、消防署との連携も行なっている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人、家族と話し合い受診する医療機関を決めている。個人のかかりつけ医にいつでも相談できる体制を作っており24h対応可能な状態になっている。法人の老健の医師とも連携を取っている。	かかりつけ医は入所時に本人、家族の希望を聞き話合って決めており、医療機関と事業所は24時間対応可能な連携体制を整えている。隣接の介護老人保健施設の医師とも連携を取っている。受診支援は家族同行の場合も職員が付き添い、日ごろの状態を報告し、できない場合は結果を報告し、情報の共有を図り適切な医療が受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医の看護師にいつでも相談できる体制を作っている。又、居宅部に看護師が配属になり、いつでも相談できる体制を作っている。何かあればすぐ対応可能である。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中、見舞いをおかね病院の相談員と相談し、家族の希望を聞きながら病院との連携を図り、早期退院に向けた働きかけを行なっている。又、協力医療機関との連携を取っている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に、将来についての相談を行なっている。その都度かかりつけ医に相談し、家族とも話し合いを重ねながら対応している。又、近隣施設との連携も取っている。</p>	<p>入所時の早い段階から、重度化した場合や終末期のあり方について本人、家族と話し合い、事業所の建物の構造上、できることとできないことを説明している。状態が悪化した場合は家族、医療関係者、職員とその都度、話し合い情報を共有しながらチームで支援できる体制を整えている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>法人のマニュアルに沿って実践しており、近隣施設の協力も得られる。</p>			
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災訓練は、年2回実施しており、夜間を想定した訓練も行なっている。近隣施設と合同で実施することにより連携がとれるようにしている。又通報システムを導入し協力体制の強化を図っている。</p>	<p>火災訓練は隣接の施設と合同で年2回実施し、うち1回は消防署からの参加を得て実施している。また近隣施設との通報システムを導入し協力体制の強化を図っている。更に調理器具をガスからIHヒーターに交換するなど火災予防に取り組んでいる。地域消防団との協力体制も構築している。</p>	<p>これまでも災害対策については様々な状況を想定した訓練が実施されてきたが、昨今の災害発生状況から、火災のみならず水害、地震等の様々な災害を想定した、より実践的な訓練についての取り組みも期待したい。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの性格や入所前の生い立ち等を把握し一人ひとりに合わせた会話や、声かけを行っている。	職員は利用者に対して人生の先輩であるという気持ちを常に持つように心がけ対応することを徹底している。利用者それぞれの性格や生い立ちを考慮したうえでの会話、声掛けをし、呼称についても本人がどのように呼ばれたいか等を確認したうえで決めるといった細かい気配りも行われている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの表現の仕方を常に観察し、理解できるようにしている。それに合わせ自己決定できるよう声かけを工夫している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に日課を決めず、利用者の希望を優先し本人のペースに合わせて生活できるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者自身の希望を尊重し好みに合わせた身だしなみや、おしゃれができるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑からの収穫を、利用者と共にできたり、食材の下準備や盛り付け、後片付け等と一緒にできている。又職員も一緒に食事をし、コミュニケーションを図っている。	自家菜園での収穫から食材の下準備、盛り付け、食事、後片付けといった一連の作業を職員と共にすることにより、家庭的な食事を楽しむことのできる雰囲気作りに努めている。食事の献立は職員が作成し、法人の管理栄養士に確認した上で決定されるが、畑から収穫された旬の物があるとき、また利用者の希望によって臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と相談しながら、献立を作成している。又、利用者の状態に合わせて柔らかめにしたたり、刻む等の工夫をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、声かけをし清潔を保てるよう支援している。義歯のある方には、洗浄剤を使用している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握する為に排泄チェック表を活用し、その方に合った随時トイレの声かけ、誘導を行っている。	排泄チェック表を活用し、利用者それぞれの排泄パターンを把握し、その方に合ったタイミングで随時トイレへの声かけ、誘導を行って排泄の自立を可能にしている。そのため、オムツを使っている利用者は現在いない。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、献立に繊維質の多い副食、多めの水分補給を行なっている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望に合わせた入浴を実施している。又、拒否がある場合は時間をずらして行なうなど、臨機応変な対応を心掛けている。	週3回から4回の入浴を基本に、本人の希望に合わせた入浴を実施している。本事業所は個浴のみであるが、利用者が温泉気分を味わえるように近隣施設と連携し、大浴場を利用させてもらい、入浴自体の楽しみの幅を広げる工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日光浴や活動等を行ない、生活のリズムを整えている。又疲労の程度を観察し状態に合わせた対応を行なっている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師からの説明や指示を実行し変化があれば随時医師への報告を行なっている			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族からの情報収集を行い、生活歴を生かしその人に合った役割、作業、活動を提供している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩に行きグランドで遊んでいる子供達や、近所の方と接している。又、買い物やドライブ、近隣施設との交流を行なっている。又、行事等で少し遠出のドライブも企画している。家族と相談して対応している。	天候や本人の希望に応じて近隣の散歩や買い物、遠方のドライブまで幅広く外出支援が行われている。遠方への外出をしたがらない利用者に対しても近隣への散歩や日光浴、近隣施設での行事などに参加することで外出を行えるよう支援している。時期によっては本人や家族の希望と協力により、お盆のお墓参りや一時帰宅の支援も行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望で小銭、小額の金銭を持っている。又、個々に応じて事務所で管理している。必要物品や、好みの物を買に出かける機会を作っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、対応している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改築している居間、食堂には茶箆筍、座卓、テーブルがり、季節の花を飾ったりしている。又、料理の際の匂い等、家庭的な雰囲気で行なっている。	事業所建物が民家を改築して作られているため、その構造が普通の家のように施設的な堅苦しさは無い。居間や食堂には茶箆筍、座卓、テーブルがあり、また季節の花を飾るなど、シンプルではあるが不自然さを感じない家庭的な飾り付けがなされている。料理の際の匂いや音等、家庭にいるかのような雰囲気で行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室にソファを置きくつろげる空間を作っている。テーブルの配置を定期的に変えたりして良い関係を保てるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら馴染みのものを配置し、居心地良く過ごせるよう入居の現状に合わせた対応を行っている。	利用者には使い慣れたたんす等のなじみの品々を居室に持ち込んでもらい、大きな環境の変化を感じさせず、より居心地の良い空間作りができるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に合わせた対応を行い現状を維持できるよう支援を行っている。		